

令和6年度(公社)愛知県栄養士会 在宅医療・介護運営委員会主催
地域密着型拠点づくりのためのスキルアップ研修会 西三河ブロック編

日時:令和6年7月27日(土) 13:30~16:30

場所:豊田市福祉センター

参加者:21名

目的:地域ケア会議に管理栄養士・栄養士(専門職)として参加できるようにするための研修会とする

公益社団法人愛知県栄養士会在宅医療・介護運営委員会では、地域密着型の拠点を置き、地域での顔の見える関係づくりの構築を目指しています。そのために、今年度から愛知県内を5ブロックに分けて地域密着型の研修会を企画しました。

第1回目となる西三河ブロック研修会では、講義と実例報告、地域ケア模擬会議とグループワークをおこないました。講義では「地域包括ケアに関わる多職種からの最新情報」と題して老人保健施設ジョイステイ言語聴覚士の小川直子先生をお招きしました。内容は、施設内の多職種連携による摂食嚥下機能の維持・向上に繋がるデータを示され、在宅でも多職種との情報連携の重要性を提示されました。そして、情報連携方法の一つとして、摂食嚥下機能を包括的に評価ができるKTバランスチャートの活用方法を提示され、食支援のポイントが共有でき包括的に多職種で介入することができることを教えていただきました。

実例報告では、「地域ケア会議からの訪問栄養食事指導」をテーマに、JA 愛知厚生連足助病院の川瀬文哉先生(西三河副ブロック長)より、独居の男性で心不全がある方に対して、一緒に調理を行ない減塩に繋げる事ができた報告がありました。実例を通して、GLIM基準と栄養診断を取り入れることで栄養課題を標準化し、本人の望む暮らしを考えた栄養ケア計画を多職種と共有する重要性が理解できました。これは、栄養ケア計画を本人や家族、各専門職が共有することで、それぞれの役割が明確になり、本人や家族のモチベーションを高めるきっかけとなり、栄養改善に繋がることが良く理解できました。

地域ケア模擬会議の前に、岡崎東病院木原八千代(西三河ブロック長)より「地域ケア会議に出席するための心得」の講義をおこないました。その後地域ケア模擬会議をおこない、グループに分かれて地域ケア会議に参加した場合、管理栄養士としての役割について考えるためにグループワークをおこないました。



受講者は、研修会を通じ地域での管理栄養士の役割を理解し、必要な知識を身に付けることができました。グループワークでは、意見交換と知識の共有を図り、さらに名刺交換をする事で顔の見える関係づくりが出来たと感じました。

今後の予定として、8月から11月まで毎月ブロック毎に研修会を開催いたします。活動地域のブロック研修会と、12月に開催予定の全体研修会に参加することで認定証が発行されます。詳しい内容は、愛知県栄養士会ホームページにある研修会案内をご参照ください。なお、ご自身の活動ブロックのご参加を推奨しますが、都合が付かない場合は、他のブロックでの研修会に参加しても大丈夫です。

地域で顔の見える連携をつくり、活躍できる管理栄養士・栄養士を目指しましょう。

(報告 木原八千代)